

ひまわりデータの利活用促進について

令和 7 年 2 月 14 日

静止気象衛星に関する懇談会

気象庁

ひまわりのデータ活用促進に向けて

- ・ 気象庁では、気象情報・データの利活用促進に重点的に取り組んでいる。



②気象情報・データの利活用促進

- 情報・データが、基盤情報として流通・利活用されるよう、容易に取得・利活用できる環境整備と、「理解・活用」されるための取組を推進。

◎利活用の姿を実現するための具体的な取組

- 利活用環境の整備
 - ・気象情報・データの流通促進
 - ・アクセス性向上
 - ・制度の見直し
- 理解・活用力向上
 - ・防災・生活に係るリテラシー向上
 - ・経済活動への利活用

2030年の科学技術を見据えた気象業務のあり方
(気象分科会提言概要) (平成30年8月20日)

ひまわりのデータ活用促進に向けて

- 前回の懇談会であげられた今後の取組み
 - 民間事業における利用促進に向けた方策
 - 過去データも取得可能な「気象庁クラウド環境」の運用開始
 - ひまわりデータ利用の普及の取組
 - データ利用技術開発のための研究機関との協力
 - ひまわりデータ利用研究推進グループ
 - ひまわり10号赤外サウンダ観測データの利用技術の開発に関する研究協力者の募集

民間事業における利用促進に向けた方策

- 気象庁クラウド環境の運用開始（令和6年3月）
 - 気象業務支援センターを通じて過去のひまわりデータも取得可能となった
 - ※ 令和5年3月5日以降のデータを保存
 - ※ 過去データとして3年程度分を保存予定
- ひまわりデータ利用の普及の取組
 - 以下の講演会等で講演を実施した
 - ・ 日本気象予報士会技能講習会
（令和6年9月7日）
発表題：次期衛星と赤外サウンダについて
 - ・ 日本気象学会中部支部第27回公開気象講座
（令和7年1月19日）
発表題：気象衛星ひまわりの役割と次期気象衛星について



データ利用技術開発のための研究機関との協力

- ひまわりデータ利用研究推進グループ
 - 参加者の取り組むひまわりデータ利用の研究開発に関する情報交換を行うことで、その研究開発の進展を目的とする。
 - データ利用研究活動に関する意見交換を実施してきた「データ利用研究推進グループ」の活動を、当懇談会の外に場を移して引き継いでいる。
 - 大学、研究機関、企業又は行政機関等で衛星データを含むリモートセンシングデータの利用研究開発又はそれに関連する活動を行う方が参加している。
 - 気象庁が事務局を務めており、申込フォームから参加申込み可能。
 - ひまわりデータ利用研究推進グループ ポータルページ
https://www.data.jma.go.jp/sat_info/himawari/suishin/suishin_portal.html
 - 事務局への申込フォーム
<https://forms.office.com/r/sYC5NUaTtp>

データ利用技術開発のための研究機関との協力

- ひまわりデータ利用研究推進グループ
 - グループ内への情報共有を実施した。
 - 第14回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議（インド・ニューデリー）の開催について（令和6年7月24日）
 - ひまわり10号の赤外サウンダ模擬観測データを使った利用技術開発の協力者の募集（令和6年11月28日）
 - 今後、以下の内容のオンライン会合の開催を計画中。
 - 赤外サウンダ模擬観測データ提供の状況報告
 - ひまわり10号観測データの提供に関する検討状況

データ利用技術開発のための研究機関との協力

- 赤外サウンダ利用研究会

- 2月17日～18日に気象庁本庁会議室で開催予定。

（ 科研費研究課題 24H00278 赤外分光観測による大気場の4次元詳細構造の解明
研究代表者：太田 芳文 気象研究所主任研究官 ）

- 赤外サウンダ利活用に向けた取組みは活発化しているものの、まだ個々の技術的な課題について検討している段階であることから、赤外サウンダデータ利用技術やその課題等に関する情報交換を行う。
- 大学・研究機関の赤外サウンダ関連の研究者及び気象庁の赤外サウンダ利用技術開発者の参加を見込む。
- 次の各種学会等でひまわり10号に関する周知を行った。
 - 日本気象学会2024年度春季大会
 - 日本地球惑星科学連合2024年大会
 - EUMETSAT気象衛星会議2024
 - 第14回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議（詳細は資料3）
 - 第105回アメリカ気象学会
- 日本気象学会誌「天気」にも、ひまわり10号を紹介する論文を投稿した。英語版を「SOLA」にも投稿予定。

赤外サウンダ模擬観測データ

(第9回会合資料「ひまわりデータの利用技術開発と利活用促進」より抜粋)

- ひまわり10号には大気の構造を3次元的に観測することができる「赤外サウンダ」を新たに搭載する。
- ひまわり10号搭載の赤外サウンダのデータ利用を打ち上げ後速やかに開始することを目的に、ひまわり10号赤外サウンダの観測を模擬したデータ（模擬観測データ）を作成した。
 - 気象庁では、この模擬観測データを用いて、赤外サウンダの利用技術開発（衛星プロダクト開発、数値予報システム同化等）に取り組んでいる。
- 赤外サウンダのデータ利用技術開発には、研究開発者との協力が必要。そのため、本データを協力いただける研究者等に提供する。



データ利用技術開発のための研究機関との協力

- ひまわり10号赤外サウンダ観測データの利用技術の開発に関する研究協力者の募集
 - オールジャパンで模擬観測データを使った赤外サウンダの利用技術の開発を推進するため、研究協力者の募集を実施（令和6年11月～12月）。
 - 日本気象学会・日本リモートセンシング学会・各種メーリングリスト・ひまわりデータ利用研究推進グループに周知した。
 - 模擬観測データを用いた各種物理量の算出や数値予報へのインパクトの確認等を目的として6件の応募があった。
 - 大学：4件
 - 研究機関：1件
 - 民間：1件
 - 研究協力者には、順次、模擬観測データ提供（HDDの送付）を実施した。
 - 赤外サウンダ模擬観測データのデータ量 約16TB
 - 令和6年度内に、模擬観測データの利用状況について情報収集予定。
 - 追加の研究協力者の募集や、最近の現象を対象とした模擬観測データの提供についても、今後、ニーズを踏まえて対応を検討していく。